

「3年間の思い出」

1組 鈴木 蘭

私の高校3年間はとても充実していた。中学生の時に想像していた高校生活とは違う、自分の中では大きなチャレンジもした。充実した高校生活の中で特に大きな出来事がニュージーランド中期留学だ。

高校2年生に上がるタイミングで、日常がとてもつまらなく色々と悩んでいた私に、母は留学をすすめてくれた。英語も全く話せず、海外に大きな興味があるわけでもない私は、初めは躊躇していたが、母が高校で出来なかったことをやってあげたいという小さな気持ちで留学を決めた。留学の費用は軽い気持で出せる額ではないにも関わらず、何か日常を変えたいという私の気持ちに答えてくれた両親にはとても感謝している。

英語をまともに話せないまま、ニュージーランドに到着した。そこでやっと留学をしに来たという実感がわくと同時に、大きな不安にも襲われた。しかし、ニュージーランドの人々はとても優しく温かく迎え入れてくれた。分からぬこと聞くと丁寧に答えてくれるホストファミリーや学校の先生。日本人が1人の授業の時、困っているとすぐに声をかけてくれる友達。そして、日本とは生活習慣も食事も大きく異なり、とまどう異が多かった時、何より支えになったのが日本人留学生の友達だ。留学に行っているのに日本人と関わるなんてと思われるかもしれないが、何もかもが初めてだった私にはホストファミリーと同じくらい大きな存在でした。

ニュージーランドでの3ヵ月の生活はあっという間だった。本当に一瞬だったが、この経験で得たものは一生私の力になってくれると思う。留学には大きな勇気が必要だが、必ず大きなものを得ることができる。

この作文を書きながら留学のことを思い出すにつれ、改めてこの学校で3年間楽しく過ごすことが出来てよかったです。